

令和6年度		関係者評価		埼玉栄中学校	
目指す学校像	1 建学の精神 本学園は、日本国民としての常道に従い、人は生きた資本資産なりの理想に基づき、建学の精神を「人間是宝」と定めました。この精神は、生徒の将来を考え一人一人の内在する可能性をいかに開花させるかということにあります。この精神こそ、本学園建学の理念であり、本校教育の根源をなすものであります。 建学の精神「人間是宝」校訓「今日学べ」の具現化に努め、文武芸芸四道の進学校を目指します。 2 教育使命 若人の未来を考え、次のことを実践することを教育使命としています。 (1) 内在する可能性の開発				

学 校 自 己 評 価					学校関係者評価				
年 度 の 目 標					年 度 評 価			実施日 令和7年 5 月 14 日	
重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からのご意見・要望	評価
●定員の確保を図る。 ●入学者の質の向上を図る。 ●医学クラス・難関大クラス・進学クラスの学力向上を図る。	●学則定員は、各学年120名、3学年合計で360名であり、令和6年度は368名である。(充足率:102.2%)	●志願者数の増大 ●入学定員の遵守 (100%～120%)	●志願者の増加と質の向上 ・学校説明会 年6回実施 ・入試問題学習会(テスト・分析会) 年2回実施 ●入学定員の確保 ・進学実績(大学入試)の向上	●説明会への参加者が増加しているか。 ●受験者数の増加と合格者の学力が向上しているか。 ●入学定員が厳守されているか。 ●説明会で学校の内容が的確に伝達されているか。	●説明会の参加組数はのべ743組であった。(昨年度比98.2%) ●志願者はのべ5,226名で昨年に続いて、2年連続で志願者数は5,000名を超えた。 ●入学者は139名で、充足率118%(医学クラス:13名,難関大クラス51名,進学クラス75名)以上の取り組みにより、定員確保と入学者の質の向上を図ることができた。	A	●学校説明会、入試説明会等、学校を知るための内容について更なる魅力を含め、工夫、改善を行う。また、説明会の参加組数1,000組の達成、志願者5,000名以上、入学者 130名以上の達成。(医学クラス:20名、難関大クラス50名以上) ●生徒数は387名となり、充足率は107.5%となった。今後も定員以上をしっかりと確保し、入学者の更なる質の向上に努める。	少子化による定員確保の大変さは、都内私立校でも同様。その中で充足率100%を超えるのは、先生方の教育活動への情熱の賜と推察、ご苦労にA評価です。	A
●学習と部活動の両立と、家庭学習の習慣化を図る。 ●高校一貫部の大学進学を支援する。 ●授業力の向上を図る。 ●いじめ防止等人権教育の充実を図る。	●中高一貫部の大学合格状況は、国公立5名、GMARCH18名であった。 ●文武芸芸四道の進学校をめざし、学習指導・進路指導を充実させ、進学実績を向上させることが課題である。そのために中学校では基礎学力の定着を徹底する指導方法を確立させる。 ●クラス、部活動等の人間関係トラブルから若干のいじめは発生している。対応マニュアルに従って丁寧に対応することが重要である。	●学力向上の具体的方策 ●中高一貫部の医学・国公立大学・難関私立大学の進学実績の向上 ●授業力向上のための施策 ●いじめ防止等人権教育の施策	●classiによる生徒の家庭での学習状況把握する。生徒は計画、実行、反省のPDCAサイクルを確立させる。 ●進路ガイダンスなどキャリア教育の充実を図る。 ●生徒が主体的に学ぶ授業を展開するために研究授業週間と授業参観を計画的に行う。 ●探究学習の充実を図る。 ●授業アンケートによる評価を取り入れ授業改善に努める。 ●いじめ・体罰アンケートによる実態把握、防止対策の教員研修を行う。	●教職員が結果を共有し、PDCAのサイクルが確立されているか。 ●医学・国公立大学・難関大学合格者数は増加しているか。 ●大学進学率は向上しているか。 ●学力推移調査で学力は向上しているか。 ●学習成果を発表しているか。 ●適切ないじめ対応がなされているか。	●国公立7名、早慶2名、GMARCH26名、日東駒専37名他多数の合格を果たした。また、医学部医学科へ8名(うち国公立1名)の合格を果たした。医学クラスの学習環境の充実と実績が伴うことができた。 ●学力推移調査は上位の伸びとともにD3ランクの割合は全体に減少している。 ●授業評価アンケート結果を踏まえ管理職が授業見学及び指導を実施し、改善に役立てた。 ●いじめ認知、早期発見・対応に努めると共にいじめ防止対策委員会の機能を充実させている。	A	●国公立・難関大学合格者数の具体的な目標値を設定し、授業内容の研究・改善及び医学部医学科への合格を継続的に増やす。 ●キャリア教育の充実を図り、大学進学のための学部・学科の指針を明確にする。 ●進路指導で、中高の連携を図り、6年間を見通した進路指導を確立する。 ●中高の枠を超えた連絡協議会を開き情報交換を行う。 ●授業力向上を第一とする。また、Classi導入による課題の配信、学習状況の把握と、0限目・7限目補習の充実を図る。 ●引続きいじめの早期発見・対応に努めると共に発生件数が減少するよう指導を充実させる。	中高一貫校としての学力向上への方策がとても良いと思います。6年間の長期間にわたる生徒指導も保護者にとっては安心につながっていると思います。いじめ防止等への更なる指導をお願いしたい。	A
●部活動の充実	〈部活動数〉 男子 運動部19部・文化部6部 女子 運動部12部・文化部10部 〈加入率〉 全校生徒の87.2%の生徒が部活動に加入した。 今後も各部の活動内容の更なる充実を図る。	●全国大会・関東大会への出場数 ●部活動への支援体制の強化	●優秀な選手の確保 各部の監督・コーチが少年団やクラブ組織の指導者との連絡・連携を密にし、学業も優秀な選手の勧誘を行う。 ●教員の指導力の向上 各部の監督・コーチが技術的指導力向上の研修を深めるめるとともに、不適切な指導の防止にも努める。 ●指導体制の充実 各部の監督・コーチと担任・教科担任との連絡を密に取り、勉学との両立を図る取り組みを行う。	●全国大会への出場5部以上が達成されたか。 ●関東大会への出場5部以上が達成されたか。	●全国大会への出場24部(個人・団体) 全国優勝部 6部、全国入賞部 12部 ●関東大会への出場19部(個人・団体) 優勝 6部、入賞部 7部 ●部活動加入率(3月末) 全体の部活動加入率 85.9%(前年比-1.0%) ●通常開催に戻り、日頃の練習成果を大会の大舞台でも発揮できた。	A	●今後も更に各部の監督、コーチが少年団やクラブ組織の指導者との連携を密に取り優秀な選手の勧誘を行う事が大切である。更により一層指導者の資質の向上に努め、指導力向上のための研修を深めることが必要である。 ●生徒の学習と部活動との両立を図るため、各部の顧問が担任、教科担当者との連携を密に取り、生徒の現状把握と学力向上の手だてを図る。 ●部活動を通じてさらなる「人間力の育成」を図り、本校の教育目標を達成していく。 ●高校の部活動との連携を図り、可能な限り中高一貫指導体制を確立する。 ●今後も研修を継続し適切な指導を心掛け、体罰バワハラ、いじめ等の問題が発生しないよう取り組む。	部活動への賛否が議論される昨今。文武両道の実現見本となるよう、ご苦労あると思いますが、是非とも更なる飛躍を期待しております。	A
●学校改革	●医学クラスのエデュケーションシステムの構築 ●難関クラスのエデュケーションシステムの構築 ●0、7時限演習の活用 ●長期休業中の補習の充実 ●キャリア教育の充実 ●基礎学力の充実 ●教員研修の充実 ●ICT教育の充実 ●探究的学習の充実と継続	●医学クラスの状況 ●演習の任意プログラムとキャリア教育の進捗状況 ●各種行事の取組みを通した探究的学習及びプレゼン発表 ●ICTのハード・ソフト面の実績	●医学クラスについては、平成28年度から募集を開始。放課後の医学プログラム(理数セミナー)計画作成 ●将来の生き方在り方を踏まえた進路指導を統括し、生徒の適性を考え担任と協力し、統一感をもって指導する。 ●朝、放課後の学習システムを構築し、実施する。 ●様々な外部団体と連携したキャリア教育を充実させる。 ●短焦点プロジェクターを活用したICT教育の推進と充実を図る。	●各改革案が実行されているか。	●全体の学力向上。 ●0、7時限の補習体制は部活動と両立を図ることを大前提に理数セミナー(医学対応)指導に力を入れていく。参加人数も徐々に増えている。令和5年度からは、医歯薬看護系希望生徒までの体制に拡充している。 ●各学期に1回外部講師を招いて教員対象の人権教育を実施した。また、ベネッセによるクラッシーの利用方法や学力推移の研修なども実施された。 ●短焦点・Ipadを活用し、学習を深化させて学力向上に繋げることができた。 ●医難クラスにおけるスクールコマーシャルプレゼンを実施した。	B	●医学クラスの募集活動と、カリキュラムの提示。 ●放課後補習の検証と更なる発展的施策を行う。 ●教育課程の検討とPDCAサイクルの確立。 ●6年間一貫したキャリア教育の確立をめざす。 ●授業、補習、部活動、学校行事等すべてを関連させ、学校全体で体系的に教育内容を充実させる。 ●ICT教育の指導力の向上を目指して研修を取り入れていきたい。		B

○達成度

A: 充分達成
(100%)

B: 概ね達成
(80%程度)

C: 変化の兆し無し
(50%前後)

D: まだ不十分
(30%程度)

E: 方策の見直し
(20%未満)